

※このメールは、ミット・エナジー・ビジョン社の視察セミナーにご参加頂いた方々に BCC
でお送りしています。

※四半期に1度程度、メールニュースをお送りします。

※お手数ですが、ご迷惑に思われる方は、「送付不要」とだけ記して、送信者に返信してい
ただけですと送付リストから外します。よろしく願いいたします。

皆さま、ご無沙汰しています。お元気でしょうか？

コロナ禍で激震だった 2020 年も終わり、2021 年になろうとしています。皆さまにとっては、
どんな年になりましたか？ 私たち MIT のメンバーでは、欧州での視察の受け入れがほぼ
すべてキャンセルとなり、仕事の面で非常に大きな影響がありました。各自が様々な形態
の新しい分野で活動することを決心したり、すでに新しい試みをスタートしたりといった年にな
っています。

今回も、MIT メンバー3 名から、皆さまにコラムと各種の告知についてメールニュースをお
送りします。今回は、池田→滝川→村上という順でコラムを書いています。それでは、最後
までお楽しみください(村)。

MIT: 池田

「日が照ってきた。充電プラグを入れなきゃ！」

10 月末から初めての EV に乗っています。今年 1 月末に注文して、9 カ月待つようやく納
車されました。もうすぐ生産が終了する eGolf。一世代前の EV です。

当初は 10 年乗っているパサートをあと数年乗り潰して、という計画でした。しかし昨年半ば
から 頻繁に故障して、修理代がかかるし手間がかかるし、友人の自動車整備工場に行く
たびに苦笑いされ、「この車いい加減にしてくれ」と思っていた矢先に、eGolf 生産終了に伴
う割引セール情報を年はじめに見つけました。さらに国の補助金もあり、車税は EV だと
タダ、保険も安く、月々の総コストを計算比較してみると、パサートを修理メンテしながら乗
り潰すより安いことがわかったので注文しました。自宅の屋根の 10kWp の太陽光発電を自
家消費もできるので。

バッテリーの容量は 36kWh。普通の下道走行ですと 1 回の充電で 250km くらいの走行距離。アウトバーンで時速 120km で走っていると 200km くらいです。子供のサッカーの試合やバレーや音楽教室の送り迎えや買い物に使うことがメインで 1 日 50~100km くらいの走行なのでこれで十分間に合います。

できるだけ太陽が照っているときにプラグを差し込んで充電するようにしています。前日に天気予報を見てプログラムすることもできますが、ドイツの 11 月、12 月は、どんより曇った日が多いので、ちょっと晴れ間が見えたときを狙って充電してます。理由は屋根のソーラーを自家消費すると普通の電気代の 3 分の 1 なので。地域の電力会社シュタットベルケからの普通の電気で充電すると 100km あたり 5 ユーロ弱、パサートのディーゼルですと 8 ユーロくらいの燃料費だったので、3 割ほど割安です。全部自宅のソーラーから直接充電できれば 2 ユーロ以下になり、燃料費が 7 割も安くなります。

ガレージに、11kW(16A*230V*3 相)のコンセントを電気屋さんに取り付けてもらい(通常の家庭用のコンセントは 1 相で 3.7kW)、それにポータブル式の充電ステーションをつけています。空の電池を最速で 4 時間くらいで満タン。でも出来るだけ太陽光を使いたいのので、充電スピード(アンペア)を半分か 3 分の 1 に下げて調整し、ゆっくり充電しています。高速道路沿いの直流のスピード充電器ですと 45 分くらいで満タンに。コーヒー飲んで休んでいる時間です。

最新の EV モデルですとバッテリーの容量も大きく走行距離も倍以上、充電スピードも数倍のものがありますが、我が家の需要には 1 世代前のこの車で十分です。経済的でもあって。姿、形、走り心地は古き良き普通の Golf。これが一番安心感をもたらしました。全て新しい EV 専用モデルだと ちょっと不安だったので。長距離を走る際は、視察の仕事などで使っている古き良き 8 人乗りミニバスがあります。今年はコロナ休業していますが。

この機会に電気自動車にまつわるいろんなこと調べています。LCA や電池のリサイクル、充電インフラなど、朗報がたくさんあります。10 年前から大きく進化しています。おそらく交通は、近い将来 EV と水素が大きな 2 本柱になるでしょう。3 月に予定している MIT のウェビナーにてお話したいと思います。お楽しみに！

！お知らせ！

★2021 年 3 月 MIT オンラインセミナーシリーズ「気候中立に向けたエネルギー一大転換」

2021 年 3 月、福島第一原発事故から 10 年の時が経ちます。皮肉にも MIT の立ち上げにも繋がることとなったこの事故の日のタイミングで、MIT・エネルギー・ビジョンでは、3 回のオ

オンラインセミナーを開催します。内容は、セクターカップリングの3要素、電力＝交通＝熱部門についての3回連続講座となっていますが、どれか1回だけでもお申込できます。

お申込み、詳細については、1月にお知らせします。皆さまのご参加を楽しみにしています！

2021年3月、3回とも開始19:00～21:00まで

- ・3月2日(火)滝川薫「自然・景観と共生する太陽光発電」
- ・3月4日(水)池田憲昭「電気自動車の環境性能アップデート」
- ・3月9日(金)村上敦「ドイツの暖房給湯器とエネルギーシフトの方向性」

MIT: 滝川

「オーストリアは廃オイルボイラー元年」

毎日のニュースがコロナ色で覆いつくされる影で、エネルギーヴェンデもひっそりと進行中です。2050年の気候中立を目指した政策の具体化の一環として、スイスでもCO2法の改訂がようやく決まりました。その中で、2030年までに化石熱源へのCO2税が、現行の1トン96スイスフラン(約1万円)から210スイスフラン(2.3万円)までに上げられるようになったことや、航空チケットにCO2料金が導入される事になった点が小さな進歩です。

しかし、最も大きな排出源のひとつである既存の建物の熱源、オイルボイラーの廃止については、スイスでは、まだ時間がかかりそうです。23年から既存の熱源を交換する際にはCO2排出量に規制がかかり、その値が段階的に減らされて、43年にはゼロになる計算です。既存のオイルボイラーを新しいオイルボイラーで交換する施主が多い事がスイスでは問題になっていますが、当分の間、その問題は継続しそうです。

その点、お隣の国のオーストリアは目標も対策も明瞭簡潔です。2030年までに100%再エネ電力、40年までにカーボンニュートラルを目標とし、国として気候非常事態宣言を採択。そのために、2035年までに市場に60万台ある既存のオイルボイラーを徐々に廃止してゆくステップが決まっています。

今年から新築でのオイルボイラーの採用は禁止(これはスイスも基本的に同じですが)。素晴らしいのは21年から、既存のオイルボイラーの更新が禁止される点です。25年には築25年以上のオイルボイラーの廃止が義務に。こうすると35年までには、すべてのオイル

ボイラーが無くなるそうです。ガスボイラーについても 25 年から同様なステップが予定されています。

それぞれの国で政治的に可能で、得意な手法は異なります。コロナ規制でも、ボイラー規制でも、中央の行政主導で、強く明確な規制がオーストリアらしいです。対して、国としてはあまり強く規制せず、州が主導となり、インセンティブを強めて導くやり方はスイスらしいと思います。どちらの国でも、化石エネルギーや電気生炊きの暖房から再エネ熱源に転換する場合には、手厚い助成金が出されています。

さて皆さんのエネルギーヴェンデにとっては、どのような一年であったでしょうか？ 来年には日本の皆様と再会できる日が来ることを楽しみにしています。

！お知らせ！

★ソーラーコンプレックス社による日本語ニュースレター

ミット・エナジー・ビジョンでは、南ドイツの市民エネルギー企業ソーラーコンプレックス社が発行するニュースレターの日本語版の作成をサポートしています。下記リンクからソーラーコンプレックス社の日本語ニュースレターを読むことができます。同社の活動が、日本で地域密着の再生可能エネルギー事業に取り組む方々の参考になることを願っています。

2020 年の日本語版ニュースレターの閲覧はこちらから

春号 <https://blog.goo.ne.jp/swisseco/e/7dccb5bbccd19edcd732813bffa364aa>

夏号 <https://blog.goo.ne.jp/swisseco/e/5f8f22314f8e8f32c7215ec7b48991a0>

秋号 <https://blog.goo.ne.jp/swisseco/e/e4cd0b984e1ce02525c664ae74fe66fa>

MIT: 村上

「ニセコ町での持続可能なまちづくり」

私はこれまで MIT での「地域資本によるエネルギーシフトの取り組み」と並行して、日本では一般社団法人クラブヴォーバンという団体で、日本各地の小規模自治体に対して「持続可能なまちづくりを行うための支援」をしてきました。

そのような活動とご縁の中で、今年の7月には北海道のニセコ町において、ニセコ町、地元建築・建設・設備に関連する手工業者、および私たちの団体という資本構成で、「株式会社ニセコまち」というまちづくり会社を設立しました。

<https://www.town.niseko.lg.jp/chosei/sdgs/>

主な業務は、?国から選定された SDGs 未来都市モデル事業としての取り組みで、町の住宅不足に対応するため 500 人程度の持続可能な街区を開発すること(デベロッパーとして)、?町の 2050 年までの気候中立目標を実現するために、公共施設や民間施設に対して低炭素のエネルギー供給事業を行ったり、省エネ診断を実施すること(地域エネルギー事業者として)。

そして、将来的には第二の役場として、?公共施設/町営住宅の運営・管理を一括して行うこと、?町内の建物の省エネ改修を実施したり、老朽化に伴うリプレースや街なかへの移住促進、集住化など変化する人口動態に対応した再開発などによって、省エネが徹底された建物のストックを作り出すことも期待されています。地域エネ会社の設立は全国あちこちで乱立しましたが、廃棄物焼却場での発電や大型のバイオマス、あるいは FIT 関連をテコにしたエネ事業以外に、地域デベロッパー事業を中心に据えたこうした「まちづくり会社」の設立というのは、おそらく全国でも珍しいのではないかと思います。

同時に、ここをモデルとして、人口減少・高齢化社会における持続可能な自治体の姿を研究し、検証し、横展開してゆくような壮大な構想も生まれようとしています。

<https://www.toshimiraikenkyukai.com/>

ということで、今年のコロナ過では夏の終わりから北海道にこもりっぱなしでしたし、来年も多くの期間はドイツのフライブルク市ではなく、北海道のニセコ町から情報発信することになりそうです。

その際、ZOOM などオンラインでの会議システムの普及や Slack などの業務チームにおけるコミュニケーションツールの発展によって、在住場所にとらわれず業務を進めることができるようになったことには大いに感動しています。

とはいえ、人の心を動かしたり、人と人をつないだり、調整したり、そんな場面ではまだまだリアルでの対面が必要とされています(という感覚でまだ私はいます)。しかし、エネルギーの部門だけではなく、こうした IT の部門では 10 年前の出来事は考古学といわれるようなスピード感の世界です。これまでの常識が、今後の非常識になるのかどうか(現地にいる必要は全くなくなる?)、大いに注目したいと思います。

さて、2021 年も、ドイツと日本との両地において、あるいはネット上で、皆さんとお会いできる機会があれば幸いです。

今回のメールニュース、いかがでしたか？ それでは、次回もお楽しみに！